

出席者の意見概要

【世界水準の価値創造空間について】

- 10年後、20年後の北海道を見据えると、今は挑戦すべき時期。1度や2度の失敗であきらめてはいけない。多くの人々がサハリン航路を活用してどんどん挑戦して欲しい。サハリン航路は、日本の素晴らしい食材等を世界に向けて売り込むルートとして活用できると思う。

【人材育成・対流の促進について】

- 次世代を担う若者の育成はもちろん大事であるが、高齢者の知恵をいただくという視点も重要。高齢者自身の生きがいにも繋がり、北海道全体が元気になるのではないか。
- 地方の大学として、地域を再生し、地域を元気にする人材を育成することを使命と考えている。昨今は、第一次産業や観光等でもICT技術が求められており、地域の産業を支える人材を地域の中で育成することが重要と考える。
- 豊富町は、重度のアトピーの症状に悩む患者を中心に全国から湯治客が集まり、交流人口が増えてきている。しかしながら、受け入れ・対流の場が不足しており、場の確保には、既存ストックの活用のほか行政の理解・支援も必要。

【地域資源の活用について】

- 消滅可能性都市と言われている地域でも、素晴らしい資源を地域の人々が活かす取組を行うことで人口流入に繋がっている。これは、人口流入の潜在力を十分に活用すれば人口の減少を食い止めるのは難しくとも、消滅可能性を低くできるということ。一方、人口流出を食い止めるには、働く場のほかに地域に学ぶ場が必要であり、それがうまく循環するという仕組みが望まれる。
- 利尻島を目指す人は、「北の島」という魅力に惹かれて訪れる。しかし、島内の整備に伴い生活が快適になる一方で帰化植物が増加し固有種が減少するという問題がある。島の人にとっても便利で機能性があり、利尻島を目指してくる人も北の島だと感じる、住む人と来る人が共有感を持てる島づくりに取り組むことが重要。
- 昔は厄介者でしかなかった強風が、風力発電により資源に変わった。こうした資源がありながら、使っていない、気づいていないこともあるのではないか。
- 風力発電を活用し、水を電気分解すると、水素のほかに酸素と電気分解装置からの余剰熱が得られる。運搬が難しい熱と酸素は熱源等として地域で使うことができる。化石資源に替えて、このような地産のエネルギーを活用していくと、地域に対しても仕事や雇用の創出につながると思う。